

製品名: TCF-3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18733**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	63kDa

抗原情報

遺伝子名	TCF7L1
別名	TCF7L1; TCF3; Transcription factor 7-like 1; HMG box transcription factor 3; TCF-3
遺伝子 ID	83439.0
SwissProt ID	Q9HCS4
免疫原	抗血清はヒト TCF7L1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

背景

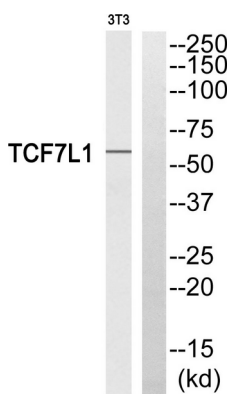
この遺伝子は、T細胞因子/リンパ系エンハンサー因子ファミリーの転写因子のメンバーをコードしています。これらの転写因子は β カテニンによって活性化され、Wnt シグナル伝達経路を媒介し、形質転換成長因子 β シグナル伝達経路によって拮抗します。コード

されているタンパク質は、高移動度グループボックス DNA 結合ドメインを含み、細胞周期遺伝子と細胞老化の調節に関与しています。[RefSeq 提供、2010 年 11 月],ドメイン: N 末端 CTNNB1 結合ドメインと HMG ボックス間の推定 Groucho 相互作用ドメインは、TCF7L1 および CTNNB1 によって媒介されるトランス活性化の抑制に必要です。機能: Wnt シグナル伝達経路に関与します。DNA に結合し、CTNNB1 が存在しない場合はリプレッサーとして、CTNNB1 が存在する場合はアクティベーターとして機能します。表皮細胞の終末分化、ケラトヒアリン顆粒の形成、および表皮バリア機能の発達に必要 (類似性による)。NQO1 のダウンレギュレーションを引き起こし、マイトマイシン C 耐性の増強につながる。類似性: TCF/LEF ファミリーに属する。類似性: 1 つの HMG ボックス DNA 結合ドメインを含む。サブユニット: CTNNB1 のアルマジロリピートに結合し、安定した複合体を形成する。組織特異性: 毛包および皮膚ケラチノサイトで検出され、胃上皮にも低レベルで存在する。

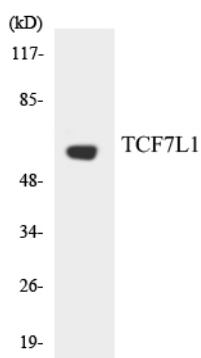
研究分野

幹細胞経路; 接着結合; タンパク質アセチル化

画像データ



TCF7L1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが TCF7L1 ペプチドでブロッキングされている。



TCF7L1 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。